

令和５年度 小林市立三松中学校 学校関係者評価書

【４段階評価】 ４：期待以上 ３：ほぼ期待どおり ２：やや期待を下回る １：改善を要する

- 学校経営方針
「生徒が主体となる学校づくり」の積極的な推進をとおして、自ら考え、判断し、主体的に行動する力を身に付け、未来に向かって伸びていく生徒を育成する。

【学校教育目標を達成するための重点目標：重点目標を達成するための具体的な取組】

重点目標	目標達成のための手段	具体的な数値目標等	結果の考察・分析及び改善策等	自己(職員)評価	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
確かな学力の向上【知育】	１ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得とそれらを活用した思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業づくりの工夫・改善	・ 授業がよく分かる割合５７％ ・ １月実施の実力テストが全学年とも地区平均点以上 ・ 英検IBA３級合格レベル以上の割合２０％以上 ・ 授業でICT（タブレット）を活用できる教員９０％以上	○ 校内研究により、効果的にICTを活用した授業実践ができています。 ○ 授業中にタブレットを使用することが当たり前になり、生徒・職員ともにスキルアップにつながっている。 ○ 学校訪問や一人一実践授業を通して、一人一人の授業改善や工夫した授業づくりの意識が高まっていると思う。 ● 生徒の実態に応じた個別最適な学びについては、次年度も校内で検討していく必要があると考える。 ● 情報モラルに関して、今後力を入れていく必要がある。	２． ７	３． ３	○ ICTがごく普通に授業で活用されている様子を参観の度に見て、学力向上に繋がる可能性を感じています。課題である「個別適正な学び」と「情報モラル」の取組にも期待しています。昨年度も書きましたが、情報モラル教育におけるデジタル・シティズンシップの取組も見たいと思います。 ○ 先生方の努力によるICT活用の定着から生徒同士の相乗効果も得られたと思う。 ○ チャレンジテストとても良い取組だと思います。英検・漢検が校内で受験でいよいと思います。数検が早く県内で受験できるとさらにレベルアップしそうです。 ○ 効果的にICTを授業に活用できてよかったと思う反面、情報モラルの向上が必要になってくると思います。 ○ ICT授業に対する生徒・職員の資質向上に向けた取組が見られたと思います。
	２ 主体的・対話的で深い学びの実現に向け、生徒の学びに向かう力を引き出し、学ぶことの楽しさや喜びを実感させる指導法の工夫・改善	・ 授業が楽しい割合６０％以上	○ 校内研究により、生徒に三松メソッドが浸透し、各教科で学び合いが積極的に行われている。 ○ 主題研究をとおして、教師及び生徒の実態把握や変容に関するアンケート等、様々な取組が充実し、指導方法の工夫・改善につながった。 ● 一人一人に応じた授業がまだ十分ではなかった。 ● 学びあいや思考の時間を確保するように努めたが、学ぶことの楽しさには結びつけられていない。「できた」「わかった」という喜びを実感させる工夫をしていきたい。	２． ７	３． ３	○ 先生方の授業改善の意識が高まっているとの報告を聞きました。ICTなど、新しい技術や指導法への対応も大変でしょうが、継続して進めていただければと思います。「説明を最小限にして子どもが考える時間を…」は、難しいですが、とても良い取組だと思います。 ○ 全学年同じ内容のテストを実施するなど学習意欲を高める工夫が見られる。また研究授業の機会にて先生方が授業づくりや指導方法を学ぶなど協働や工夫が見られた。 ○ 参観日しか見ておりませんが、一人一人しっかりノートに書いており、学ぶ意欲は感じられます。 ○ 個人ごとに応じた授業は難しいことだと思います。まずは、授業が楽しいと生徒に感じさせられる取組を行っていけば結果はついてくるように思います。
	３ 家庭学習と授業との連携による学習習慣の定着		○ 内容の充実を図るため宅習から日々課題に変更した。身につけさせたい基礎基本の問題や分野別の強化を図った。 ● 効果的な家庭学習を今後も考えていければと思う。 ＊ 家庭学習をどう考えていくか、発想の転換が必要。みんなで考えていく必要がある。	２． ４	３． ２	○ 家庭学習に対しての発想の転換が必要との分析結果がありました。「レベルに合わせた課題設定」や「与えられる課題から自らの課題へ」の取組を、今後も進めていただければと思います。 ○ 家庭学習の取組は保護者の認識の差があるため課題解決は困難を極める中、先生方は真摯に向き合ってくださったと思うが、家庭学習の定着について生徒自身が理解を深めるよう在り方検討会など必要ではないか。 ○ 学級通信など宅習ノートの見本など掲載してくださり勉強になります。
	４ 将来の夢や目標をもたせ「学びに向かう力」の育成を目指したキャリア教育の充実	・ 「学び態度」７３％以上	○ 地域の方について、貴重な話を聞く機会が十分確保されていた。 ○ 総合的な学習の時間を中心に、地域人材等の活用が図られた。	２． ８	３． ２	○ キャリア教育の視点に立った学力向上を小林市では進めています。三松中は地域人材を積極的に活用していますので、徐々に成果が生まれてくることでしよう。 ○ キャリア教育では、東京大学教授の講演など先生が奮起する機会となり、将来の目標設定など一翼を担う取組だと思う。 ○ ホームページを見ていると、郷土芸能や講話など取り入れ良いなあと思いました。 ○ これからもキャリア教育の充実をお願いします。

豊かな心の醸成【德育】	1 自己存在感や充実感を得られる「居場所づくり」と生徒一人一人が活躍し、互いに認め合い、高め合える「絆づくり」の推進	- Q-U検査における学級満足度75%以上 - 新規の不登校0 - いじめの解消率100%	- 学年によるQ-U分析の時間を設けることにより、共通理解を図ることができ、組織的に対応が行われた。 - いじめ解決に向けて、学年で粘り強い指導と見守りを行った。 - いろいろな悩みなどを抱えている生徒が多く、自己肯定感が低い生徒が多く課題として捉えている。	2. 4	3. 3	- Q-U検査の分析による共通理解と組織的な対応の説明を聞き、先生方が熱心に取り組んでいることがよく分かりました。また、「主体的に活動する生徒が増えてきた」との成果は、実行委員会が中心となって取り組む学校行事にも表れていると思います。 - 体育大会など、生徒が主体となり活躍していたのが印象的だった。自己主張ではなく生徒による称え合いや気遣いも見受けられ感動した。過去最高の体育大会であった。 - しっかりと向き合っている気がします。 - 社会の多様化とともに、生徒の悩みも複雑になっていると思います。
	2 ベクトルを合わせた積極的な生徒指導の充実により「規律と礼儀」を重んじた学校づくりの推進：「凡事徹底」	職員の自己評価（4段階）で、3. 2以上	- 対応事案について、学年や職員会等で共通理解を図りながら方向性を検討し、解決に向けて取り組むことができた。 4月の段階での共通理解、共通認識が不十分だったと思う。	2. 7	3. 2	- 校門でのあいさつの様子が出勤途中に目に入ります。以前に比べ、立ち止まって丁寧にお辞儀をしている生徒が増えたように思います。コミュニケーションの始まりであるあいさつは、さまざまな面に良い影響を与えることでしょう。 - 生徒から自然に挨拶してくれるなど先生方のご指導の下、語先後礼など礼儀正しい行動や落ち着きも見られた。 - 言葉遣いなど気になりませんでしたのできちんとしているような印象です。
	3 考え議論する道徳（道徳科）を核とする道徳教育の充実と道徳的实践力の育成	全職員が道徳授業の実践1回以上	- モラルジレンマ題材を基に、道徳的な葛藤から内容項目への理解を図る授業をとおして、考え議論する道徳の授業実践がなされた。 - 道徳の授業をする余裕を作れなかった。学年として実践方法を決めて取り組む必要があった。 - 時数の関係もあり、実施できなかった。	2. 3	3. 0	「考え議論する道徳」はとても魅力的な響きがします。充実した話合いのためには、話し合う技術もさることながら、自由に意見が言える学級の心地良さが欠かせません。学級づくりと同時に、意見や感想を述べる機会を子どもたちにたくさん与えてください。 - 道徳の授業を全職員（一人一回以上）が実施する目標は達成できなかったが、先生方のいろいろな視点での道徳の授業を通じて基本的規範や思考を身に付けてほしい。 - 学級通信を見ているとしっかり取り組んでいるように感じますが、「余裕」を考えると外部講師対応で先生方も生徒たちと一緒に参加も楽しそうです。 - 来年度は道徳の授業の実施をお願いします。
	4 心身に健康をもたらす読書活動・図書館活用の推進	読書の一人平均12冊以上の割合60%	- 朝読書の本を生徒がもっと意欲的に選べるようにする工夫が必要だった。 * 読む生徒と読まない生徒に差があるため、学校全体をとおして、読書の習慣化に向けた取組を推進していく必要がある。	2. 5	2. 8	- 学校全体をとおして「読書の習慣化」が課題とのこと。朝読書と読み聞かせが計画通りできているとのことです。これからの伸びに期待しています。 - コロナやインフルエンザの対処緩和から屋外活動も取り戻しつつある昨今、生徒の読書や図書館利用が減少したと思う。 - 新刊やおすすめの本などアナウンスが必要では。 - 読書しない生徒への声かけが必要だと思っています。
	5 「いのちを大切にする教育」の推進	年間における取組を2回以上	- タブレットの健康観察等を活用して、毎日、生徒の相談希望の有無を確認し、学年間で情報を共有することができた。 - 地域人材を生かした「いのちの大切さ」を考えさせる取組が十分ではなかった。	3. 1	3. 3	- タブレットを活用して生徒の相談希望の有無を確認し、学年間で情報を共有する取組は評価できます。子どもたちのSOSを受け止めるために、いろいろな種類のアンテナをたくさん設置しておく必要があります。 - タブレット活用にて相談や悩みを打ち明け、先生方が対応してくださるなど早急な対応ができており、生徒による積極的な発信が期待できる。 - PTAと連携をして外部講師や親子で参加もいいなあと思います。 - タブレットでの健康観察はとても良いと思います。ナイスアイデアです。 - タブレット活用は素晴らしいと思います。

【学校教育目標を達成するための重点目標：重点目標を達成するための具体的な取組】

重点目標	目標達成のための手段	具体的な数値目標等	結果の考察・分析及び改善策等	自己 (職員) 評価	関係者 評価	学校関係者評価コメント
健やかな体の育成【体育】	1 運動や生活習慣への意識向上に向けた活動の充実：体力向上プランの実践	・ 体力テスト４８項目中３６項目以上が県平均以上	○ ロードレース・駅伝大会では、各自の記録向上、学級集団の高揚に向け、ひたむきに取り組む姿が見られた。 ○ 保健体育科を中心に、運動や生活習慣への意識向上を高めることができた。 ＊ １年生の体力向上に向け、小学校との系統的な指導の連携が必要である。	2. 9	3. 2	○ １年生の体力向上のために。中学生が「三松体操」を作り、小学校と連携して取り組むアイデアは良いですね。課題解決のために「やってみる」ことはいろいろな分野で必要だと思います。 ○ 体力向上の目標は達成していないが、今後は小中合同研修会や三松体操を中学生主導の企画があるとの説明あり。小学生からの取組で体力も向上していくと思う。 ○ ぜひ、三松体操を楽しみにしています。
	2 健康教育の充実と保健管理の徹底	・ 虫歯治療率７５％以上 ・ 肥満率１０％以下	○ 学校保健委員会を活用して保護者への啓発活動を行うことができた。 ○ 養護助教諭と学級担任とのＴ・Ｔによる性教育を実施し、性に関する知識やライフスキルを身につけさせるとともに、自己や他者の命を大切にする授業を展開できた。 ＊ 虫歯治療率の向上に向け、家庭との連携による治療の促進を行っていく必要がある。	2. 9	3. 2	○ 学校保健委員会での保護者への啓発、養護助教諭と学級担任とのＴ・Ｔによる性教育など、積極的な対応がなされていると思います。 ○ 学校周辺に２か所も歯科医があるにも関わらず虫歯治療率は上がっていないが虫歯による体への悪影響など認識不足も想定されるため親子で治療の必要性を感じるよう取組の検討が必要と思う。 ○ 治療が終わるまでプリント案内など本人への意識改革も必要かと思います。 ○ 虫歯治療率を上げるには、保護者の協力が必要ですね。
望ましい食習慣の定着【食育】	1 マナーを高め、食の大切さや素晴らしさを感じ、感謝の心を育てる給食指導の充実	・ 残食ゼロ達成日８５％以上	○ 各学級で、残食ゼロの意識が高まっており、協力して取り組んでいた。 ○ 担当の先生や委員会での取組が生かされている。 ○ 毎日の給食時の放送で、食の大切さや感謝の気持ちをもって給食をいただくことを伝えた。	3. 2	3. 7	○ 残食ゼロ達成日が80.5％（１月末現在）はすごいと思います。目標の85％まであと少しですね。 ○ 残食ゼロ達成日85％以上の目標は80.5％と達成できなかったが、目標達成に向け努力も見られる。また、中学１年生が4月に完食できず小中で共通理解を図っていくとの説明があり残食の減少が期待できる。 ○ 生徒たちへの声かけをされているそうで、引き続きお願いいたします。 ○ 残食率が向上してるとのことで、取組が実になっているのではないかと思います。
	2 「弁当の日」の効果的な実践と教育活動全体を通じた食に関する指導の推進	・ 全て自分で作った弁当を持参する生徒３０％ ・ 朝食欠食０％	○ 「弁当の日」の実施にあたり、９０.５％の生徒が一部、またはすべて自分で作るなど、前向きに取り組むことができた。 ● 駅伝・ロードレース大会当日のお弁当作成に、困難さを感じた。	2. 7	3. 2	○ 「弁当の日」が計画的に実施されており、生徒が前向きに取り組んでいることは評価できます。 ○ 弁当の日の意味する内容を保護者も再認識されるといいと思う。生徒も保護者も負担にならない夏休みや冬休みでの取組（写真やイラストで提出）や調理実習にて、おかずを一人で作るなどいかがでしょうか。 ○ 親子の会話やスケジュール管理など、お弁当作りはとても良い取組だと思います。大変ですけど。体育大会の予備日などお弁当を持っていく日に合わせてはいかがでしょうか。 ○ なぜ「弁当の日」があるのかを伝える必要があるのではないかと。
	1 業務改善の推進：ワーク・ライフ・バランスのとれた職場環境づくり	・ リフレッシュデー以外の日で部活動がない日は午後５時３０分までに全員退校する。 ・ 自己啓発デー月２回	○ 啓発活動により、時間管理が行えてきている。 ○ 退勤時間を書くことで、意識が高まっている。 ○ 退庁目標時刻の設定により、見える化及び意識付けが図られた。 ● 時間管理の見直しと、メリハリのある業務の推進を心がける。 ● 電話相談などについて、保護者も時間について十分な理解が図れるとよい。	2. 4	3. 2	○ 先生たちが心身ともに健康でいることが「子どもたちのため」です。働き方改革を積極的に進めている学校の取組を応援しています。 ○ 退庁時間を自身で目標設定する取組が功を奏したと思う。 ○ ウェルビーイングが広がるといいなあと思います。職場で取り入れており、離職率がぐっと下がりました。 ○ 退庁目標時刻を自分で設定して書くことはとてもいいアイディアですね。 ○ 退庁目標設定を「見える化」したことは、職員の意識改革にとっても役立つことだと思います。

その他	2 三松中学校部活動の方針に基づく活動休養日の設定の徹底	・ 部活動の方針に基づく計画的な練習と休養日を全部活動が行う。	○ 各部とも地域指導者と連携して、充実した部活動を実践している。 ＊ 今後も平日1日、休日1日の活動休養日の設定及び徹底に努めていく必要がある。	2. 9	3. 2	○ 地域指導者と連携して、充実した部活動ができているとのこと。地域部活動のモデル校としての取組に期待しています。 ○ 義務教育ということで、できれば学校生活優先の技術向上も大事ですけど、負担がかからないようにお願いしたいです。第3日曜日は家庭の日なので、できればお休みがいいのかなと思います。 ○ 活動休養日は必要です。ぜひ徹底してください。 ○ アンケートでは、学校より部活の方を重要視する意見が散見されますが、一番は学校の授業だと思います。部活重視の保護者の意識改革も必要ではないかと感じました。
	3 会議・校内研修等における時間の効率化	・ 効率的に会議・校内研修等を毎回行う。	○ 長期休業中の研修が、本年度は随分と精選された。 ＊ 報告の時間を減らし、議論する時間を増やす。ペーパーレス化を改めて推進し、今一度効率化を図っていく必要がある。	2. 7	3. 3	○ 長期休業中の研修の精選や、報告よりも議論の時間を増やす取組を、今後も進めていただければと思います。 ○ 会議の効率化を図るための検討内容の事前聴取や対応し日数を減らす工夫が見られる。 ○ よく分かりませんが、ソフトなど活用しながらディスカッションしつつ報告も兼ねるといいなあと思いました。
	4 年次有給休暇の取得率向上及び振休の適切な取得	・ 年間1人あたり5日以上	● 長期休暇時の年休等の取得が目立っており、計画的に振休や年休を取得することが課題である。 ＊ 振休は最低でも確保できるような体制を整える。	2. 7	2. 8	○ 教職員の休暇取得は難しい問題です。授業の進度や学級の状況を考えるとなかなか休めないという先生方も多いことでしょう。「振休は最低でも確保できるような体制を整える」とあるように、個人の問題から学校の体制づくりにシフトする取組が望まれます。 ○ 振休取得が困難との説明。できるだけ早期に振り替えてできるよう策を講じていただきたい。 ○ 休みが取りやすい環境になるといいなあと思います。男性の育休などもチャレンジしていただきたいです。
次年度の方角性に向けての校長所見		○ 本年度の学校評価では、多くの項目において3を超える評価をいただいた。各項目で生徒の姿から成長を感じていただいていることは、大変ありがたく、全職員がしっかりと学校経営ビジョンを共有し、組織的・実践的な取組を推進できたことの成果であると考えている。しかし、職員の自己評価が低い項目や関係者評価において課題が提示されている項目もあることから、さらなる教育活動の充実に向け、効果的な具体策の推進に努めていきたい。 ○ 次年度も引き続き、「知育・徳育・体育・食育」のバランスのとれた生徒の育成を目指していくこととし、特に「確かな学力の向上」及び「豊かな心の醸成」を重点課題として、学校の教育目標の具現化を図るとともに、「働き方改革」を積極的に推進することで、生徒及び教職員の生き生きとした姿があふれる三松中学校にしていきたい。 また、各項目においては、以下の取組を中心に実践していきたいと考えている。 【確かな学力の向上】 ＊ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、三松メソッドに基づく授業づくりを推進するとともに、デジタルドリル等の活用による「個別最適な学び」の充実及び「情報モラル教育」の推進に努めていきたい。また、地域と学校との連携協働によるキャリア教育の一層の推進を図っていきたい。 【豊かな心の醸成】 ＊ 生徒がやりがいを感じ、達成感や自己肯定感を高めるための生徒主体の取組の充実を図るとともに、いじめや不登校に対する組織的な対応及び個々の生徒の実態に応じた必要な支援の充実にも努めていきたい。また、校内外を問わず当たり前のことが当たり前に行える「凡事徹底」の一層の定着を図ってきたい。 【健やかな体の育成】 ＊ 体力向上プランの実践をとおして、運動の日常化を図るとともに、小中連携による具体的な取組の推進に努めていきたい。また、健康に対する意識向上を目指し、健康診断結果等の生徒の実態に応じた具体的・効果的な指導の充実にも努めていきたい。 【望ましい食習慣の定着】 ＊ 日常的な給食指導のさらなる充実にも努めるとともに、小中連携による具体的な取組を推進することにより、マナーの向上や食に対する関心を高めていきたい。また、「弁当の日」の意義や取組に係る家庭への理解促進に向けた取組の充実にも努めていきたい。 【その他：働き方改革】 ＊ 時間管理と見通しをもった業務遂行を図り、時間外勤務削減に努めるとともに、会議のスリム化を図り、内容の充実及び時間の効率化に努めていきたい。また、地域部活動推進モデル校として活動のさらなる推進に努め、持続可能な部活動運営へとつなげていきたい。				